

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月16日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04511

研究課題名(和文) 高大連携による「21世紀型能力」育成を目指す世界史単元開発とデータベース化

研究課題名(英文) A Research for World History Unit Development Which Aims at Training of "the 21st Century Skills" by Cooperation of High School Education and University Education

研究代表者

田尻 信壹 (TAJIRI, Shinichi)

目白大学・人間学部・教授

研究者番号：10436800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、21世紀型能力の育成の観点から高大接続の一環として大学研究者が高校地歴科教員の協力を得て行う研究であった。高校の歴史授業の現状を分析して歴史的思考力育成型授業の理論と授業実践例を収集しデータベース化を図るとともに、実践可能な授業モデルを開発して高校現場に発信することであった。

本研究では、米国と日本の先端的なカリキュラムに基づく歴史授業を収集・分析し、研究成果を研究公開用ホームページ(世界史授業アーカイブ)に掲載するとともに、授業分析を行い、社会科学会・高校教員の研究会等での発表、学位論文(博士)としての刊行、大学紀要への投稿を通じて、研究成果の発信と普及に努めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、知識活用型・知識創造型歴史授業理論に基づく世界史授業モデルを開発して、研究成果の公開用ホームページ(世界史授業アーカイブ)、社会科学会、教員研修会等で発表することを通じて、高校教員に探究型歴史授業とは何かを提示することができた。そして、高校教員に対して、コンピテンシー・ベースの授業作りの理解を深められたとともに、生徒の史料解釈力の育成を重視した歴史授業の開発と実践に向けての一助となることができた。とくに、ホームページを開設したことで、研究成果を継続的に公開、発信することができた。そして、大学の研究(教科教育学)と高校の教育実践との一体的研究の推進に向けての道筋を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This research is research which university researcher does by obtaining collaboration of history teacher of high school from a viewpoint of training of the 21st century Skills. We analyze the present condition of history lesson of high school. We are collecting many theories and lessons which we research historical thinking skills and creating database for our research. And It is developing history lesson model centering on world history which we can be practiced and sending to the high school by internet.

In this research, we were able to collect many history lessons based on the ultramodern curriculum of U.S. and Japan, and were able to post the result of research on our Homepage (World History Lesson Archives) for result-of-research public presentation. Moreover, I published a thesis (PhD) as a book, and the contribution to the bulletin for the result.

研究分野：教科教育学および初等中等教育学関連

キーワード：世界史授業アーカイブ 21世紀型能力 高大連携 歴史的思考力 探究的世界史学習 史料の活用 歴史授業のアーカイブ化 コンピテンシー

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

## 1. 研究開始当初の背景

今日の学校教育においては、グローバル人材をいかに育成していくかが課題となっている。グローバル人材の育成とは、国際感覚と能力に長けたエリートの育成を目指すことではない。グローバル化と多文化化を背景とした社会の急激な変化への適応力、対応力を備えた市民を育てることこそが求められている。この能力は、「21世紀型能力」と称されている。

「21世紀型能力」を学校での歴史学習に着目してみるならば、小・中学校では、授業研究の進展や観点別評価の導入によって、児童・生徒の興味・関心や主体性を育むための授業改革が定着してきた。しかし、高校においては、授業方法の改善が行われてきたとは言え、大学受験を理由にした知識注入型、知識獲得型の授業がいまだに主流を占めている。「21世紀型能力」の育成を目指した歴史学習を、小・中・高校を通じて継続的・段階的に育成していく上で、高校での授業研究や授業実践は小・中学校に比べて圧倒的に少なく、両者の間には大きな断絶が見られる。そのため、地歴科唯一の必修科目であり、また地歴科の「総合科目」としての役割が期待される世界史において、ややもすると「学習方法不在」と言われる現状を打破し、「21世紀型能力」の趣旨を授業で具体化することは重要であると考えに至った。

## 2. 研究の目的

今日の学校教育では、グローバル化と多文化化を背景とした現代社会を生きるための適応力、対応力を備えた市民の育成が求められている。この能力は「21世紀型能力」と称されており、小・中・高校を通じて、継続的・段階的に育成していくことが喫緊の課題となっている。

このような問題意識から、本研究は、以下の二点の研究課題を達成することを目的とする。第一に、他の学校種と比べ、「21世紀型能力」に係わる研究や実践が少ない高校において、地歴科世界史を対象として、「21世紀型能力」の育成を目指した世界史単元の収集と開発を行う。第二に、開発した単元を「21世紀型能力」を涵養するためのモデル教材として、地歴科教員を対象とするワークショップやWEBで公開し、高校現場への発信と普及を目指す。

## 3. 研究の方法

本研究は大学研究者と高校地歴科教員とが共同して行う「大高連携」の研究である。そのため、研究の方法として、以下の4つの研究課題を設定して行うことにした。

- ・研究（ア）「21世紀型能力」に関しての日米世界史教科書の分析
- ・研究（イ）「21世紀型能力」育成の観点からの世界史授業のデータベース化とWEB公開
- ・研究（ウ）「21世紀型能力」育成の観点からの歴史授業に関する海外調査（米国）
- ・研究（エ）「21世紀型能力」育成の観点からの探究型学習の構築に向けての世界史単元開発と研究成果の社会科系学会、歴史教育の研究会・研修会・ワークショップの発表・報告

## 4. 研究の成果

（1）本科研の特質すべき研究成果として、「ホームページの構築と活用」が挙げられる。

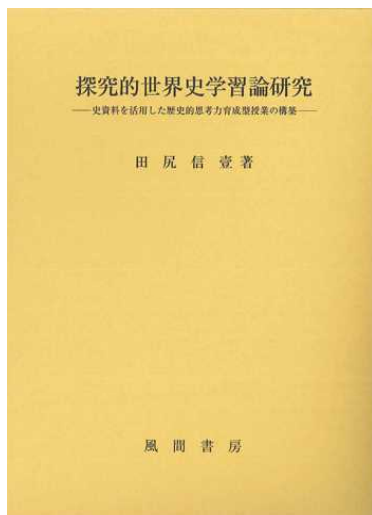
「世界史授業アーカイブ」（[www.archives-whl.jp/](http://www.archives-whl.jp/)、下の写真参照）は、研究（イ）『「21世紀型能力」育成の観点からの世界史授業のデータベース化とWEB公開』のために開設した



写真 ホームページ「世界史授業アーカイブ」の表紙画面

ホームページである。このホームページでは、世界史を中心とした日本内外の中等教育段階の歴史授業を収集して記録化し、紹介している。また、歴史授業作りに役に立つ情報、史料、論文・報告書などを掲載している。

(2) 本科研の研究成果を元に、2017年12月に『探究的世界史学習論研究—史資料を活用した歴史的思考力育成型授業の構築—』(風間書房、ISBN:978-4759921977)を上梓することができた。



本書は、2016年度に日本女子大学大学院人間社会研究科(博士後期課程)に提出した学位論文に加筆・修正を加えて出版したものである。本書では、歴史意識と歴史的思考力を鍵概念として、21世紀社会に対応した探究的世界史学習の理論研究を行い、それに基づいて開発した四つの授業構成モデルを提案した。この授業モデルは、研究(エ)で示した『『21世紀型能力』育成の観点からの探究型学習の構築に向けての世界史単元開発』の事例として位置付けられる。

#### 【世界史の四つの授業構成モデル】

- ・考古学史料の活用による授業構成モデル：単元「『新安沖沈船』の積み荷から見た14世紀の東アジアの海域世界」の構想
  - ・博物館史料の活用による授業構成モデル：単元「『大航海時代』以後の人の移動ともの交流は、人々に何をもたらしたのか?!」の構想
  - ・図像史料の活用による授業構成モデル：単元「19世紀米国南部諸州の紙幣に描かれたアフリカ系アメリカ人のイメージ」の構想
  - ・地図史料の活用による授業構成モデル：単元「黒死病と14世紀の世界」の構想
- これらの授業構成モデルは、新科目「世界史探究」を先取りした教材開発の事例として高校地

歴科の新教育課程のもとでの授業に多大の貢献を果たすことが期待できる。

<引用文献>

- ①田尻信壹『探究的世界史学習論研究―史資料を活用した歴史的思考力育成型授業の構築―』  
風間書房、2017、pp. 201-363。

## 5 主な発表論文等

本科研期間（2015年4月～2019年3月）中の主な研究成果を、雑誌論文、学会発表、図書、産業財産権、その他に分けて記載する。

### 【雑誌論文】（計10件）

- ①田尻信壹、日本とつながる世界史 「歴史的思考力」を伸ばす授業デザイン「新安沖沈船の積荷から見た一四世紀の東アジア海域世界、社会科教育、56（1）、2019、34-37、査読無  
DOI：なし、オープンアクセスではない又はオープンアクセスが困難
- ②田尻信壹、A P世界史における歴史的思考スキル―単元 “An Industrializing Age(工業化の時代)”を事例として―、目白大学人文学研究、15号、2019、1-35、査読有  
DOI：なし、オープンアクセスとしている（また、その予定である）
- ③田尻信壹、小学校の社会科歴史授業の研究―久津見宣子・山本典人・有田和正の原始社会の単元を事例として―、目白大学高等教育研究、25号、2019、31-45、査読有  
DOI：なし、オープンアクセスとしている（また、その予定である）
- ④田尻信壹、探究型授業での評価を可視化するための方法―コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへのカリキュラム設計のための一考察―、目白大学「人と教育」、13号、2019、45-50、査読無  
DOI：なし、オープンアクセスとしている（また、その予定である）
- ⑤田尻信壹、A P米国史における歴史的思考スキル、目白大学人文学研究、14号、2018、1 - 26、査読有  
DOI：なし  
[https://mejiro.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1288&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://mejiro.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1288&item_no=1&page_id=13&block_id=21)
- ⑥多田孝志、深い思考の考察、未来を拓く教育実践学研究、2号、2018、1 - 21、査読有  
DOI：なし、オープンアクセスではない又はオープンアクセスが困難
- ⑦田尻信壹、歴史カリキュラム “Reading Like a Historian（歴史家のように読む）”の教授法略、目白大学総合科学研究、12号、2016、1 - 18、査読有  
DOI：なし  
[https://mejiro.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=419&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://mejiro.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=419&item_no=1&page_id=13&block_id=21)
- ⑧田尻信壹、新教科「世界史探究」から考えるディープラーニング：私のおすすめ授業モデル 「歴史家のように読む」ことを通じて市民的資質の育成をめざす、社会科教育、53（11）、2016、58 - 61、査読無  
DOI：ISSN2188-4269
- ⑨田尻信壹、博物館と学校カリキュラム、国立民族学博物館調査報告「学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ」、138巻、2016、11 - 19、査読無

DOI : 10.15021/00008302

- ⑩多田孝志、グローバル時代に小学校国語科学習の考察、未来を拓く教育実践学研究、1号、2016、7-14、査読有

DOI : ISSN2432-4930

**【学会発表】(計9件)**

- ①田尻信壹、探究的世界史授業の創り方ー鍵としての史料と「問い」ー、愛知県世界史教育研究会(招待講演)(愛知県立大学サテライトキャンパス)、2019
- ②多田孝志、教育の質とESD、日本ESD学会(招待講演)(国連大学ウ・タント国際会議場)、2018
- ③田尻信壹、これからの世界史教育に求められるものは何かー世界史単元『黒死病と14世紀の世界』の構想を通じてー、愛知県東三地区地歴公民教育研究会(招待講演)(穂の国とよはし芸術劇場PLAT)、2018
- ④田尻信壹、世界史は『文明』をどのように語ってきたか、これから『文明』をどのように語るべきか、日本社会科教育学会第68回全国研究大会(奈良教育大学)、2018
- ⑤田尻信壹、史資料を活用した歴史的思考力育成型授業の構築ー探究の可視化を目指した世界史カリキュラムの設計ー、日本社会科教育学会第68回全国研究大会(奈良教育大学)、2018
- ⑥田尻信壹、戦後歴史教育から見た歴史意識と歴史的思考力の特徴と課題ー21世紀社会に対応した歴史的思考力育成型授業の開発に向けてー、日本社会科教育学会第67回全国研究大会(千葉大学)、2017
- ⑦田尻信壹、巨人の物語をひもとくー藤井能三の生涯ー、高志の国文学館(富山市)、2017
- ⑧田尻信壹・田部俊充、米国教育制度改革の実情、日本社会科教育学会第65回全国研究大会(宮城教育大学)、2015
- ⑨多田孝志・申智媛・牛志陸・林明星、東アジアの学校教育に関する国際シンポジウム、日本学校教育学会第30回研究大会(招待講演)(目白大学新宿キャンパス)、2015

**【図書】(計6件)**

- ①田尻信壹・多田孝志 他(目白大学児童教育学科編)、三恵社、未来へ紡ぐ児童教育学、2018、300pp.
- ②田尻信壹、風間書房、探究的世界史学習論研究ー史資料を活用した歴史的思考力育成型授業の構築ー、2017、432pp.
- ③多田孝志、東信堂、グローバル時代の対話型授業の研究ー実践のための12の要件ー、2017、296pp.
- ④田尻信壹・多田孝志 他(目白大学児童教育学科編)、三恵社、未来を拓く児童教育学ー現場性・共生・感性ー』三恵社、2015、380pp.
- ⑤多田孝志 他、教育出版、持続可能性の教育ー新たなビジョンへー、2015、132pp.
- ⑥田尻信壹 他、学事出版、中等社会科21世紀型の授業実践、2015、208pp.

**【産業財産権】**

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

**【その他】**

ホームページ「世界史授業アーカイブ」 [www.archives-whl.jp/](http://www.archives-whl.jp/)

## 6 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：多田 孝志

ローマ字氏名：TADA, Takashi

所属研究機関名：金沢学院大学

部局名：文学部教育学科

職名：教授

研究者番号：50341920